

東海鉄道株式会社

代表取締役社長 金子慎 様

拝復

令和2年5月20日付け「中央新幹線南アルプストンネル静岡工区の準備再開について（お願い）」と題する貴信を拝受しました。

本県はリニア中央新幹線に反対しているものではありません。

しかし、大井川の水問題、ならびに大井川の源流の南アルプスの自然環境の保全については、流域住民の不安はきわめて強く、県民の大多数の関心も高く、また最近、広く国民各層から工事そのものへの懸念が表明されております。どう解決するかが課題です。

現在、そうした不安や懸念を払しょくし、課題を解決するために、科学的な観点に立って技術的に解決できるのかどうかを検討するために、国土交通省の指導で有識者会議が設置され、検討がはじまったばかりです。

貴社は国土交通省から指導を受ける立場であり、有識者会議を尊重すべきです。その有識者会議第一回会合で、貴台は会議が自社のために設置されたものとはきちがえ、冒頭で不適切な発言をされました。貴台の発言は有識者会議の不興を買うとともに、国土交通大臣からは「誠に遺憾」という発言を招くことになりました。貴台がみずからの不適切発言を公式に撤回されるように国土交通省に申し入れております（別紙参照）。

当面は、有識者会議の検討を見守るのが筋だと思います。

しかし、手をこまねいているわけにもまいりません。

貴台は平成30年6月20日、静岡市と「中央新幹線（南アルプストンネル静岡地区）の建設と地域振興に関する基本合意書」を結ばれました。市長とともにみずから記者会見に臨み、明確にトンネル工事を約束されました。県道三ッ峰落合線は工事現場に通じる作業道であり、工事を歓迎しています。しかし、約束されたトンネル工事は、その後どうなっているのでしょうか。一日も早く静岡市と協力して工事を始めてください。

作業道の未整備は目に余るものがあります。小職は昨年6月13日、宇野副社長とともに、畑薙ダムから西俣までの20数キロ余の林道と作業現場を視察しました。この林道は静岡工区の作業道です。上からの落石が多いデコボコ道であり、当日も一台の車がパンクしました。それを見て作業

道整備を宇野副社長は即座に約束されました。

なぜ作業林道をもっと早くに整備されなかったのでしょうか。大井川の両岸はV字型に山が迫り、危険なところです。実際、林道整備工事が始まったばかりの段階で、昨秋の台風で林道はズタズタになり、目下、河川敷に仮道を造成して作業員が往来しています。貴台が「静岡工区の準備再開」を強く訴えるのであれば、工事にたずさわる作業員の安全を第一に考えるべきです。

畑薙に通じる作業道となる南アルプス公園線道路トンネル(三ッ峰落合トンネル)の工事の早期着工、ならびにその完成見通しをはっきりと表明していただきたい。また、畑薙から西俣の林道作業道をしっかりと整備し、作業員の安全を確保していただきたい。公共交通をあずかる貴社にとって「安全第一」はモットーのはずです。約束されたやるべき工事がそこにある、それを放置したまま「お願い」とは筋違いです。

貴台が望まれる面談はやぶさかではありません。小職は流域市町・諸団体と一致して One Team で行動しています。次回の有識者会議における発言の謝罪及び撤回を見届けた上で、関係各位に相談し、お返事さしあげます。

敬具

令和2年5月22日

静岡県知事

川勝平太